









2023年度 第2なでしここども園評価

評価意義	子どもの健全な心身の発達を図り、在園する子どもの最善の利益を考慮し、望ましい未来を創り出す。力の基礎を培う為に保育計画、保育の記録、実践を振り返り、自己評価することを通して職員相互の話し合いをもとに、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にする保育評価を行い地域に開かれた福祉施設の役割を示す。		
保育	「敬人愛人」の理念の基、社会福祉を目的とし、プロフェッショナル意識をもって、保育者、教育者、として全職員が各々の能力及び知識を日々高め、結集し、地域社会に貢献する。また、家庭との連携を図り積極的に、家庭との協力を求め、豊かな人間性をもった子どもの育成を図る。		
保育	心を育てる 能力開発 健康な体づくり		
保育	保育理念の基、神を愛し、自然に感謝して、強く、優しく努力できる子どもの育成を図る。		
評価	生命の保持及び情緒の安定を図りながら、全体的な計画が子どもの育ちに関する長期的な見通しをもって作成し、子どもの実態に即した環境構成や主体的な活動が実践され、その振り返りを踏まえた適切な改善がなされること		
	頑張ったこと・工夫したこと	課題・改善策	事例
子どもの関り	<p>〈健康〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 登園前の検温を通して、体調管理を図る。また、平熱が高い（37.5度）の場合は、1週間以上の統計をとり健康観察を行う。 アレルギー児への対応を室内に掲示し、注意喚起することで保育士同士情報の共有が保たれた。 <p>〈衛生・安全〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動後の手洗い、うがい、着替えの必要性や大切さを理解し、習慣となるよう繰り返し伝えた。 室内の清掃は、次亜塩素酸を希釈液を使用、使用した玩具は、使用後に消毒庫に入れ消毒するなど衛生管理に努めた。 年4回、甲府市交通安全課の職員による交通安全教室を開催、2月には園庭に疑似道路を作り正しい道路の渡り方を体験する。 <p>〈異年齢活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 異年齢活動ではSDGs5年計画の3年目となり（Economy 経済）8・9・10・12の目標のもと週1～2回、3、4、5歳児がクラスの枠をこえたグループ活動を計画する。 製作活動の他、様々な行事（ハロウィン・大掃除・豆まき等）をグループごとに進めるなど、協調性や社会性を育む経験を重ねた。 <p>〈食育活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 異年齢活動で3グループに分かれ栽培、収穫したトマト・バジル・ピーマンを使いピザ作りをする。 年長児が田植え、稲刈りをした米を炊き、年中児はおにぎりを、年長児はちらし寿司作りをする。 各家庭から弁当箱を持参して各自盛り付け異年齢グループで食べることで子ども同士で体をつくる食べ物について話す機会をもった 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な感染症発症時には状況を保護者にメール送信するなど周知を図った。 園での感染症対策を定期的に伝え、拡大防止への意識を保護者と職員との間で共通理解できるようにしていく。 机や椅子、ドアノブ等、感染症対応のため次亜塩素酸ナトリウムを希釈して消毒し安全を考慮し布に散布してから拭くことを徹底する。 使用した玩具はその都度、消毒庫に入れ消毒し、玩具の使いまわしをしないよう徹底する。 異年齢活動では4つの目標をテーマに、子どもたちのつぶやきや遊びの様子から廃材を活用し、創作意欲をかきたてる環境構成を考え、子どもたちの発想を大切にしたい取り組みになるように働きかける。 行事に向けての製作活動を異年齢のグループで行うことで子どもが育ち合う様子が見られ。引き続きそのような活動ができるように保育者間で話し合い計画していく 食育活動について栄養士との意見交換の機会をより多くもち、引き続き様々な取り組みを建設的に行えるよう連携をとる。 	<p>交通安全教室</p>  <p>異年齢活動</p>  <p>食育活動 〈栄養士による取り組み〉 〈ピザ作り〉</p> 
保護者との関り	<p>〈情報配信〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページにてクラスごとに子どもの活動写真や動画を掲載する。行事や製作活動、戸外活動、運動会などの取り組みの様子など子どもの育ちをより分かりやすく伝えた。 作品展では、活動内容を保護者がより分かりやすく理解できるように、立体マップにして掲示する。また、未満児は散歩などで拾ってきた自然物を使った製作物を作っている様子の写真を添えて展示する。 <p>〈保護者対応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスが5類になったことを受け、保護者の入室制限を解き、送迎時は保育室での対応とする。マスク着用と、玄関での検温、消毒については、引き続き協力をお願いする。 2日以上欠席した児については、家庭に電話連絡して様子を聞くなど状況把握に努めた。 感染症で欠席した児については、看護師より家庭に連絡、発症時の様子や医師とのやりとり、今後の対応について話す。 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者会と協力し合い、園の行事並びに清掃活動を円滑に進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 未満児は、活動の過程でのつぶやきや様子等をより具体的に掲示し育ちを伝えていく。 保育所保育支援での情報は、全職員で共有していくものの個人情報については慎重に取り扱を行っていく。 送迎時や連絡帳からの相談では、親身になり、意見や指摘においては真摯に対応し信頼関係を構築していく。 職員全員が話しやすい雰囲気をつくり、保護者の置かれている状況を考慮し、寄りそった対応をしていく。 園からのメール連絡事項を確認し、未読の家庭には再送する。 園の休日及び夜間時緊急連絡番号を知らせ、感染症発症連絡に役立てた。 	<p>誕生会</p>   <p>作品展</p>  
組織としての取り組み	<p>〈行事・活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な感染症が流行したため、引き続きリモート会議で姉妹園と連携を図りながらキリスト教主義の保育目標をもってプログラムを進めることができた。 地域コーディネーターと連携し、それぞれの年齢に即した成長発達に必要な保育環境のあり方について定期的に話し合った。 研修を通して学んだことを共通理解できるよう、「園内研修」の場をもつ。 コミュニケーションを円滑にする伝え方や聴き方のポイントなど人間関係を築くための学びをアドラー心理学を通して行う。 保育月案、週案を通して活動内容を振り返り、計画から実践までを自己評価し次に繋げた。 <p>〈長時間保育〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 異年齢交流の場でもあり、長時間保育の充実を図るために遊びの選択ができる環境づくりを行う。また18時以降は、個別性を大切にしたい遊びを取り入れ、ゆったりとした関りがもてるよう配慮した。 <p>〈危機管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を通して避難時の心構えや避難方法を確認し合い、職員の共通理解を図った。 散歩外出記録及び園外保育連絡表を活用し、人数確認や安全面での配慮を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 未満児クラス担当と以上児クラス担当が行事に関して共通意識と理解をもち、計画から内容の検討に至る話し合いができるよう、引き続き連絡会議の回数や時間調整に努める。 昨年同様、一人ひとりの成長発達を踏まえ、「10の姿」を意識した「何を・どこが」「どう育て、どう育つか」を意図した保育を実践するために必要なことを考えていく。 保護者へのアンケートを参照に、保護者からの意見も尊重し、成長を喜び会える機会としていく。 昨年同様、子どもの人権を尊重し、柔らかく丁寧な言葉かけを身につけ引き続き見守る保育の姿勢を根付かせたい。 園児の個人記録の取り扱いについて、職員一人ひとりがその重要性を再認識し、報告、連絡、相談、確認をする。 	<p>クリスマス祝賀会 〈クリスマス礼拝〉</p>  <p>〈生誕劇〉</p>  <p>健康な体づくり</p> 